

緊急事態宣言延長のため10月に延期となりました

さんのう健康講座

がんけんかすい そのまぶた、眼瞼下垂かも

以前は二重で目がパッチリしていたのに、最近眠そうな目といわれる。一生懸命見ようとするのに視野が狭くて見えにくい。眼精疲労や頭痛、首や肩こりが常にある。皆さん、思い当たる節はありませんか？
3秒に1回瞬きをする瞼は人の体の中で最も薄い皮膚でできています。生まれてから常に働き続けている瞼は、年齢とともに皮膚や筋肉の働きが落ちてきます。その結果として目を開けにくい状態となることがあり、これを眼瞼下垂と言います。加齢性変化とあきらめないで、治療することで改善が期待できます。また、若年でも瞼が下がっている症状に悩んでいる方もいらっしゃるかもしれません。
今回、眼瞼下垂とはどのようにして起こるのか、その治療はどのようなものなのかについて、なるべく分かりやすくお話ししたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2021年10月14日(木) 場所：山王病院本館3階山王ホール
時間：15:00~16:00(開場14:30) 完全予約制 参加無料
いつもと開始時間が異なりますのでご注意ください



畑野 麻子 (はたの・あさこ) 医師

形成外科医長、国際医療福祉大学 臨床医学研究センター講師
専門：形成外科(形成外科全般、再建、外傷)

日本医科大学卒、医学博士(慶應義塾大学) 前川崎市立川崎病院形成外科医長、元帝京ちば総合医療センター形成外科助教、元慶應義塾大学病院形成外科助教、元東京都立小児医療センター、元埼玉社会保険病院、元大田原赤十字病院

日本専門医機構認定形成外科専門医 日本形成外科学会再建マイクロサージャリー分野指導医 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師

慶應義塾大学医学部形成外科学教室に所属し、慶應義塾大学病院、その他多くの関連病院にて研鑽を積んできました。全世代を対象とし、形成外科で扱うほぼすべての疾患の治療に携わってきました。なかでも顔面骨折などの外傷治療、良性・悪性腫瘍摘出後の再建(手術後の変形の治療)、難治性潰瘍に対する治療(床ずれや治りにくい足の傷の治療)、眼瞼下垂、瘢痕形成術(けがや手術後の傷あとや傷のひきつれ、傷の盛り上がりに対して治療)などの整容的な治療を得意としています。わかりやすく、丁寧な診療を日々心がけています。

～参加方法～ 感染拡大防止のため、当日会場での聴講と後日Web視聴の2つの方法で行います。

- 会場聴講：完全予約制(定員になり次第締め切ります。当日定員に満たない場合はご入場いただけますが、感染拡大防止のため、定員を超えた場合は会場にはお入りいただけません。)以下の事項を記載の上、FAX またはHPのお申込フォームのいずれかでお申込みください。
FAX：03-3404-3652 (さんのう健康講座事務局宛)
- Web聴講：HPのお申込フォームからお申込みください。お申込みいただいた方に、会場撮影した映像を後日メールにて配信いたします。 [申込フォームにアクセス⇒](#)



※太枠内は必須項目です。

| | | | |
|-----------|---|------|-----------|
| お名前(フリガナ) | | 参加人数 | 名 ※最大2名まで |
| お電話 | 〒 | ご住所 | |